

基礎の種類

住宅を支える、人間の足腰にあたる部分を基礎といいます。基礎は一定以上の幅と高さが必要で、公庫による高耐久性木造住宅の基準では「一体の鉄筋コンクリート造の布基礎で、幅12cm以上、地盤面上40cm以上のもの」とされています。割れたり崩れたりしないことが大切なのはいうまでもありませんが、地盤によっては基礎の下部に杭を打ったり、ベタ基礎（布基礎の間にコンクリートを流して固める）にして地盤への強度を高めます。また耐久性のために、腐朽、腐食対策も必要になっています。

▶ 基礎の種類



もっとも一般的な基礎工事。通常の地盤に用いられる。鉄筋コンクリート造が標準



布基礎の間にコンクリートを流し込み、広い面積のコンクリートで建物を支える。軟弱な地盤向き



地盤のしっかりした部分まで基礎を延長する方法。軟弱な地盤向き



しっかりした地盤の層まで杭を打ち込み、布基礎を支える。軟弱な地盤向き

▶ 基礎構造を決めるポイント

地盤の強さ建物の重量が大事です。建物を支えるいちばん下の構造は基礎になりますが、地盤調査をした上で構造に適した基礎を築かないと、建物は重みでめり込んだり、傾いたりしてしまいます。木造であれば、通常は壁の下に土台を結合させる<布基礎>が基本ですが、建物が鉄筋コンクリート造の場合は重量があるので、建物全体の下にコンクリートの版をつくって支える<ベタ基礎>や杭を地中深く打ち込み、その上に基礎を設ける<杭基礎>を用いなければならないこともあります。